



独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構  
( N E D O )

## 環境報告書2009の発行にあたって

新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）は、平成15年10月に独立行政法人としてスタートして以来、「成果を挙げるNEDO」、「利用しやすいNEDO」、「分かりやすく情報発信するNEDO」をスローガンとし、成果の最大化を目指し、出口が明確な技術開発への重点化、厳格な評価と計画への反映、大胆な制度改善に取り組んでまいりました。

今日、世界は原油・希少金属資源の価格高騰、食糧不足の深刻化、地球温暖化など、長期的かつ困難な幾多の問題に直面している一方、昨年のリーマンショックにより、我が国を含む全世界の経済が危機に陥るなど不安定要因が顕在化しております。このような中、例えば米国オバマ政権下では、経済回復とエネルギー環境問題の同時解決を狙った「グリーンニューディール」といわれる一連の政策が遂行されるなど、世界各国の政策競争も本格化しております。

こうした環境の変化に対応しつつ、NEDOとしては、平成20年度から始まった第2期中期計画において、エネルギー・地球環境問題に、技術を核として積極的に対応しております。この成果として、例えば、昨年の洞爺湖サミットでの「ゼロエミッションハウス」の展示や、家庭用燃料電池の開発・実用化など、幾多の実績を挙げてきております。

エネルギー・地球環境対策の展開に際しては、国際社会や世界市場を念頭に戦略を構築していかなければなりません。そのような観点から、欧州の政府機関との協力体制を構築するとともに、スマートグリッドに関する日米共同の研究事業を開始するなど、具体的な案件を組成して推進してまいります。

こうしたエネルギー環境問題の解決に向けた事業の成果並びにNEDOの環境配慮に向けた取組状況について取り纏め、環境報告書2009としてここにご報告いたします。

平成21年9月

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

理事長 村田 成 二



# 目次

編集方針	1
NEDOとは	2
環境配慮の基本的な考え方	4
事業トピックス	5
温室効果ガス排出抑制の取組	11
グリーン調達	14
社会とのコミュニケーション	16
その他の取組	19
NEDO事務所等所在地一覧	22

# 編集方針

「環境報告書2009」は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（以下、NEDO）における第4回目の環境報告書として、2008年度のデータを中心に報告します。

本報告書は、環境配慮活動の概要を取りまとめ、国民の方々に分かりやすく情報開示をするとともに、自らも今後の取組の更なる向上に役立てることを目的としています。

報告対象範囲：神奈川県川崎市にある本部を中心として報告いたします。

報告対象期間：2008年4月～2009年3月

報告対象分野：報告対象範囲における環境研究活動、環境に配慮した取組、職場環境並びに労働安全衛生活動を対象とします。

参考にしたガイドラインなど：

「環境報告ガイドライン(2007年度版)～持続可能な社会をめざして」(環境省)

「環境報告書の記載事項等の手引き(第2版)」(環境省)

次回発行予定：2010年9月を予定

作成部署及び連絡先：

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 総務企画部総務課  
〒212-8554

神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー 17階

電話：044-520-5100 FAX：044-520-5103

本報告書に関するご意見、ご質問は上記までお願いいたします。

なお、資源の節約のため、報告書の入手希望者には、NEDOのホームページからダウンロードしていただくことを基本とします。

[NEDOホームページ](http://www.nedo.go.jp/)

<http://www.nedo.go.jp/>



# NEDOとは

NEDOは、日本最大の中核的な研究開発実施機関として、日本の産業技術とエネルギー・環境技術の研究開発及びその普及を推進しています。

## ミッション

### ○ 産業競争力の強化

我が国産業競争力の源泉となる産業技術について、将来の産業において核となる技術シーズの発掘、産業競争力の基盤となるような中長期プロジェクト及び実用化のための研究開発を、産学官の総力を結集して高度なマネジメント機能を発揮して実施することにより、新技術の市場化に貢献してまいります。

### ○ エネルギー・地球環境問題の解決

新エネルギー・省エネルギー及び環境技術の開発・実証・導入普及業務を積極的に展開することにより、環境技術等の利用拡大と更なる省エネルギーを推進し、さらに、国内事業で得られた知見を基に、エネルギーの安定供給と地球環境問題の解決に貢献してまいります。

## 業務の概要



### 産業技術開発関連業務

第3次科学技術基本計画（平成18年3月閣議決定）において重点分野とされたライフサイエンス、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料、エネルギー、ものづくり技術等の基本的な政策に基づく分野について、日本の産業競争力強化へつながるテーマを実施し、併せて、エコイノベーションの実現を意識し、他の機関にはない機構の特徴とこれまでの業績を明確に意識、検証しつつ業務実施しています。



### 新エネルギー・省エネルギー関連業務等

我が国産業競争力の強化を果たしつつ我が国のエネルギー安定供給確保と地球温暖化問題の課題解決に貢献するとともに、アジア地域をはじめとする世界のエネルギー・環境問題の適切な貢献を果たしていくことを念頭に置き、我が国の新エネルギー・省エネルギーの2010年度目標及び京都議定書目標達成計画の達成のための短期対策を加速的に実施すること及び2030年度を目処とした我が国エネルギー戦略の達成や地球温暖化対策の究極の目的達成に貢献することを視野に入れた中長期対策を着実に実施するため、新エネルギー・省エネルギーにおける政府として重点的に取り組むべき分野の技術開発、実証試験及び導入普及の各業務、石炭資源開発業務等を戦略的・重点的に推進します。



### 京都メカニズムクレジット取得事業

我が国が京都議定書目標達成計画に基づき、京都議定書に定める第一約束期間の目標達成に向けて、国内対策を基本として国民各界各層が最大限努力してもなお京都議定書の約束達成に不足する差분을踏まえ、計画的に目標達成に必要なと見込まれるクレジットの取得及び政府への移転を、制度改善と運用体制の強化をしつつ実施します。

## 沿革

- 1980年10月 石油代替エネルギーの開発及び導入の促進に関する法律の制定に伴い、特殊法人「新エネルギー総合開発機構」として設立される
- 1988年10月 産業技術研究開発業務が追加され、名称が「新エネルギー・産業技術総合開発機構」に改められる
- 2002年12月 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構法が成立、公布される
- 2003年10月 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構として設立される

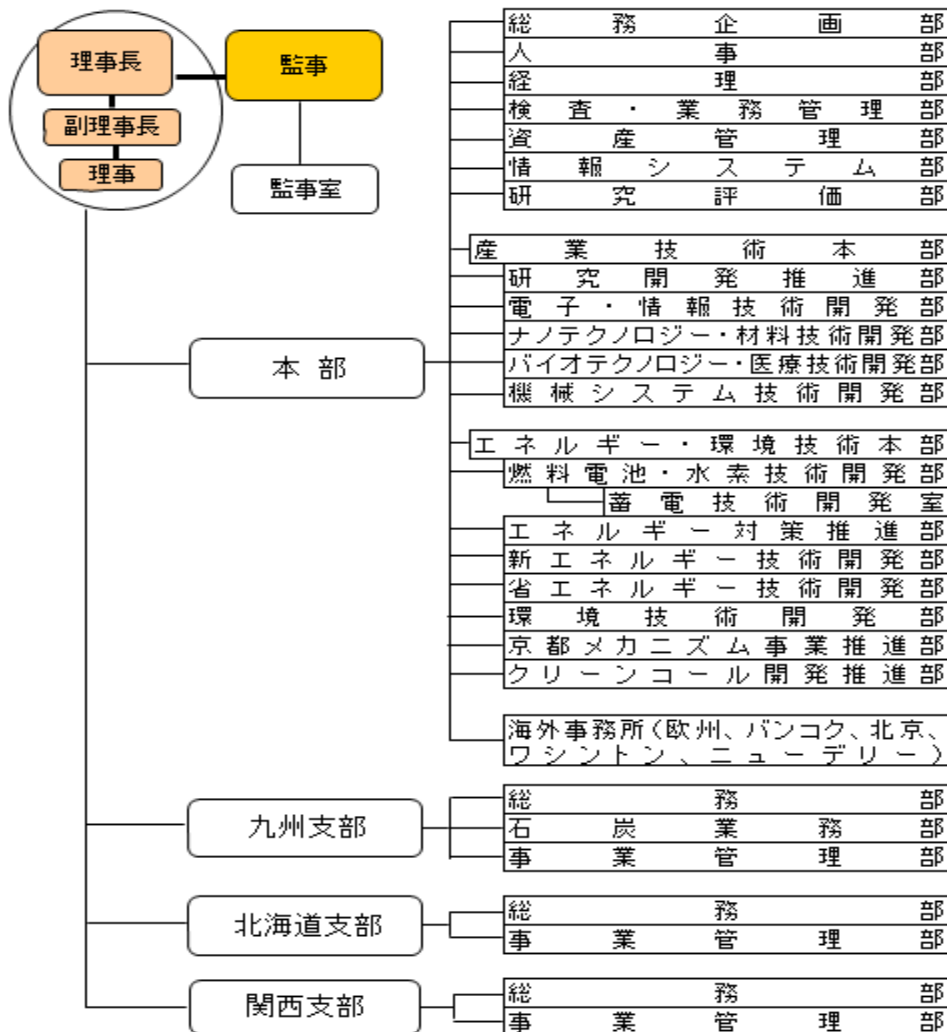
## 人員

職員数 約1,000名(2009年8月31日現在)

## 予算

約2,347億円(2009年度)

## 組織



2009年8月末現在

## 環境配慮の基本的な考え方

NEDOは、世界中で関心が高まっている地球温暖化問題をはじめとした環境問題、エネルギー問題に対し、事業の面から、そして自らの行動においても積極的に取り組んでまいります。

NEDOは、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）など6種類の温暖化ガスについて先進国の排出削減目標を定めた京都議定書において、日本政府が世界に約束した2008～2012年の間に、90年比▲6%という目標を達成できるよう、新しい環境技術、省エネ技術及び新エネ技術の研究開発とそれらの普及という、技術イノベーションを通じて貢献してまいります。

また、日本の京都議定書目標達成計画において、上記90年比▲6%のうち1.6%分は海外からクレジットを調達することなどにより達成することとしており、NEDOは、国（経済産業省・環境省）からの委託を受け、海外の排出クレジットの調達を実施してまいります。

NEDOは、自らも、温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組み、京都議定書の目標達成に貢献してまいります。NEDOは、オフィスフロアで消費する電気使用量の削減などにより温室効果ガス排出削減に取り組んでまいります。

NEDOは、また、物品やサービスを購入する場合も、できる限り環境への負荷の少ないものを購入するというグリーン調達を進めてまいります。

NEDOは、研究成果をわかりやすく発信してまいります。最新の環境技術、エネルギー技術に関する展示会やセミナーの開催、小学生や教師に対する教材の提供やコンクールの実施、図解した分かりやすい資料や情報の提供等を通じ、環境問題の啓蒙普及活動に積極的に取り組んでまいります。

NEDOは、その他、紙の使用量の削減、ごみの分別収集、安全衛生活動等についても積極的に取り組んでまいります。

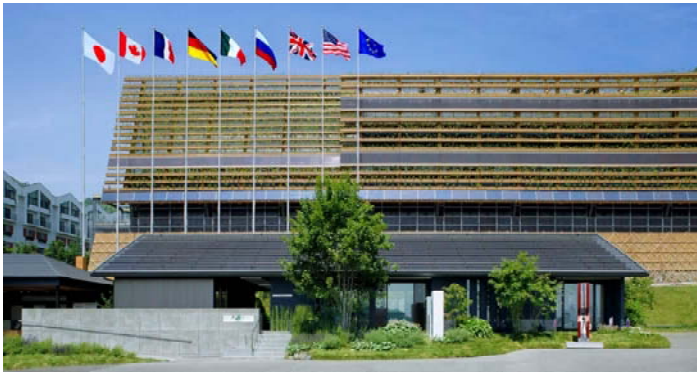
# 事業トピックス

## イベント

### 1. 北海道洞爺湖サミットに近未来型エコ住宅『ゼロエミッションハウス』を設置

地球温暖化を防止するとともに、持続可能な社会の実現に向けた卓越した、ものづくりの技術が日本には多く存在しています。

NEDOでは、平成20年7月に開催された北海道洞爺湖サミットを契機に、7月5日(土)～10日(木)の間、我が国の優れた「新エネルギー技術」「省エネルギー技術」「環境技術」を国内外のマスコミ関係者等に発信するため、太陽光発電、燃料電池、有機EL照明等の先端技術を備えた近未来型エコ住宅『ゼロエミッションハウス』を設置し、展示を行いました。



～概要～

[公開期間]

7月5日(土)～10日(木)

[展示場所]

北海道洞爺湖サミット国際メディアセンター隣地(北海道虻田郡留寿都村字泉川13番地ルスツリゾート内)

[敷地面積]

約280㎡(住居側約200㎡、足湯側約80㎡)

#### ➤ NEDOの研究開発成果の展示





### 来場者の主な反応

公開期間中に国内外のマスコミ関係者約1,000名に来場していただいた他、サミット参加国VIPにもご視察いただくなど、我が国の先端のエネルギー・環境技術に対し国内外から高い注目を集めました。

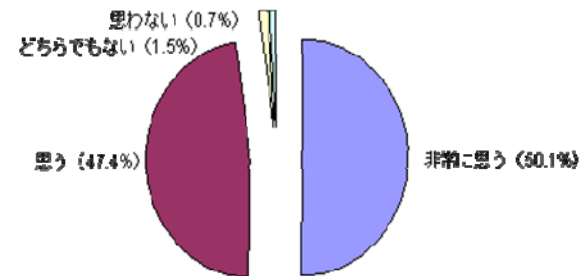
#### <来場者の主な反応>

- 最先端のエネルギー・環境技術を、「ゼロエミッションハウス」という形で展示したことは非常に有意義であり、これらの技術により、地球温暖化の防止が可能であると実感しました。
- ゼロエミッションハウスの技術を、本国でも紹介したいと思いました。
- 技術も大切ですが、同時に使う側の意識改革をしていく必要があると思います。
- 単なる技術の展示でなく、「家」という形で表現することにより、「暮らし」の中で、快適性と環境配慮の両立が可能であることを目に見える形で実感することができました。

#### <来場者アンケート結果>

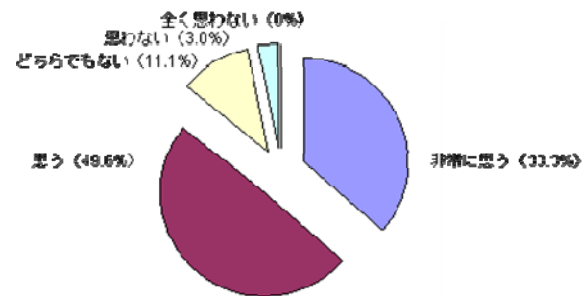
##### ■質問項目①：

最先端のエネルギー・環境技術を、「ゼロエミッションハウス」という形で展示したことは有意義と  
思いますか？



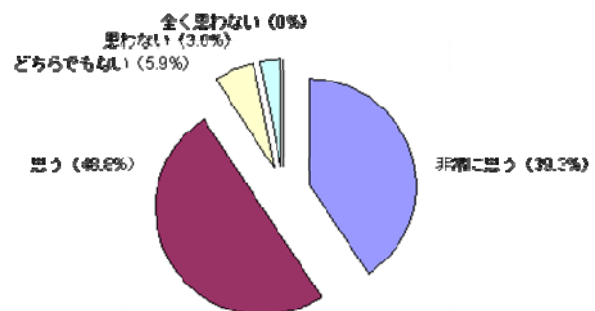
##### ■質問項目②：

ゼロエミッションハウス内の技術により、地球温暖化の防止と、快適な生活の両方を実現することが  
可能だと思いますか？



##### ■質問項目③：

最先端のエネルギー・環境技術を、「ゼロエミッションハウス」という形で展示したことは有意義と  
思いますか？



上記アンケート結果に見られるように、NEDO成果をはじめとする我が国の優れたエネルギー・環境技術を、国内外のマスコミ関係者等に対して「家」という分かり易い型でPRしたことは、有効であったと考えております。

#### ➤ ゼロエミッションハウスの一般公開

サミット終了後、ゼロエミッションハウスはルスツリゾート内から撤去し、「茨城県次世代エネルギーパーク」事業の見学施設として、茨城県古河市(積水ハウス株式会社関東工場内)に移設され、平成20年11月から広く一般に公開されております。

## 研究開発関連

### 1. 次世代大型低消費電力液晶ディスプレイ基盤技術研究開発

今日の全世界のテレビ市場規模は年間2億台以上と予測されています。特に液晶ディスプレイの需要は年々増加しており、今後テレビ産業を支える重要な柱となっています。また、液晶ディスプレイの性能・精細度の向上や薄型化、画面サイズの大型化が日々進んでいます。

一方、これに伴いテレビ1台当たりの消費電力も増加傾向にあり、電力エネルギーの大幅な増加が懸念されています。

この課題の抜本的な解決に向けて、視覚特性を考慮した人に優しい好画質かつ低消費電力型のディスプレイの開発を目指し、製造装置・プロセス技術の開発、画像表示技術の開発ならびに高効率部材の開発を実施し、消費電力を50%以上削減する見通しを得ました。これら研究開発成果を踏まえて設計指針を導出することで、「人に優しいディスプレイ」の実現に加え、液晶テレビの省エネ化による地球温暖化ガス排出量削減が可能となります。



### 2. 高性能、高機能真空断熱材の実証研究

家庭にある冷蔵庫や電気ポットの家電製品や自動販売機などに使用されている断熱材は、断熱性能が高いほど、保温のためにヒーターに通電される時間が短時間で済むことから、省エネルギー化に貢献します。

NEDOでは、従来の断熱材に比べ、その性能が飛躍的に高い真空断熱材を様々な機器に適用できるようにすること、また、真空断熱材の適用による省エネルギー化を実現することを目的とし、平成15年度から高性能、高機能真空断熱材の研究開発を実施しました。この成果は、平成18年度に省エネルギー大賞を受賞しました。さらにその後、この高性能な真空断熱材を住宅へ活用するため、平成17年度から高性能、高機能真空断熱材の実証研究を実施しました。この住宅用の断熱材は、パイパックボード硬質ウレタンフォームに真空断熱材を組み合わせることで従来に比べ断熱性能を25%向上させることに成功しました。

この結果、住宅の冷暖房に使われるエネルギーが節約でき、環境負荷が低減されます。この真空断熱材は、平成20年7月に北海道で行われた洞爺湖サミットのゼロエミッションハウスにも採用され注目を集めました。その後、平成21年3月から「ハイブリッド断熱ボード」として商品化されています。住宅用の高性能断熱材として今後の普及が期待されています。



ハイブリッド断熱ボード施工風景



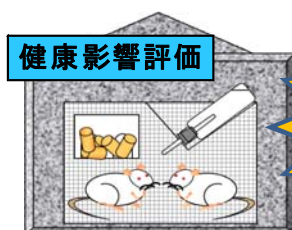
ハイブリッド断熱ボード（断面図）

### 3. 革新的次世代低公害車総合技術開発

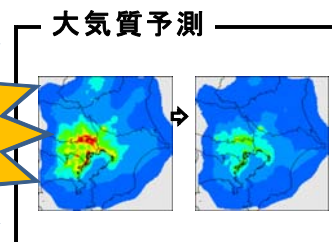
現在のガソリン自動車の排出ガス中に含まれる窒素酸化物などの濃度は、大気レベルと同等と見なされていますが、ディーゼル自動車は未だ課題が残っています。ついては、ディーゼル自動車の排出ガスに含まれる窒素酸化物などを未対策車の1/100レベルにして都市環境問題を解決し、さらにCO<sub>2</sub>の排出量を削減して地球環境問題に寄与するため、NEDOでは、「革新的次世代低公害車総合技術開発」(平成16年度～20年度)を実施しました。これは、(1)2010年代の半ば頃を目途に導入検討されている世界で最も厳しい排出ガス性能の目標値を先取りすること、(2)ディーゼル自動車の燃費を将来の基準、すなわち2015年燃費基準より乗用車では20%、大型車では10%向上させることによって、2015年以降のCO<sub>2</sub>の排出量をそれぞれ20%及び10%削減することを目指しています。(1)及び(2)の目標値を達成するため、①燃焼技術、②燃料技術、③排出ガス触媒などの後処理技術、④排出ガスの健康影響評価および大気環境予測の4分野に産学官の連携で取り組みました。この結果、世界をリードする目標を達成したと同時に、環境負荷の低減及び健康への影響がほとんどない技術を確認することが出来ました。

この成果を用いることにより、2020年に当該プロジェクトでの開発車両を全て導入すれば、自動車からの窒素酸化物の排出量は62%低減できるというシミュレーション結果が得られており、今後の環境改善に有効な手段として期待されています。

超低エミッション高効率乗用ディーゼルエンジンの研究開発  
及びナノテクノロジーを応用して高性能排出ガス浄化用触媒の研究開発  
マツダ(株) 広島大学(株) 戸田工業 大分大学



クリーン  
ディーゼル  
による  
環境改善





## 4. 家庭用燃料電池の開発

燃料電池は、CO<sub>2</sub>排出抑制やNO<sub>x</sub>（窒素酸化物）、SO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）等の有害物質削減等、地球環境問題解決の鍵となる革新技術であり、NEDO ではこの革新技術を開発・実用化させるため、家庭用燃料電池コージェネレーションシステム「エネファーム」（以下、「エネファーム」）についての基礎研究、実用化に向けた技術開発、さらに実証研究までを一体的に取り組んできました。

これらの成果により、平成21年5月から、「エネファーム」が世界に先駆けて商用化されました。「エネファーム」は、都市ガス、LP ガス、灯油などの燃料から水素を取り出し、これを空気中の酸素と反応させることで発電させるシステムです。発電時の排熱が給湯にも利用できることから、従来に比べ最大約4割のCO<sub>2</sub>を削減することができます。

NEDOは、今後もさらなるコスト低減を目指して、水素の純度が低くても耐性のある触媒の開発など、実用化を加速させるためにいくつかのプロジェクトに取り組んでまいります。また、NEDOの成果をふまえて家庭への導入促進のため、平成21年度から経済産業省にて導入支援事業が開始され、これにより、水素を利用した製品の第一号が商用化し、水素社会の実現に向けて大きく貢献しています。



NEDO「定置用燃料電池大規模実証研究事業」参加メーカー



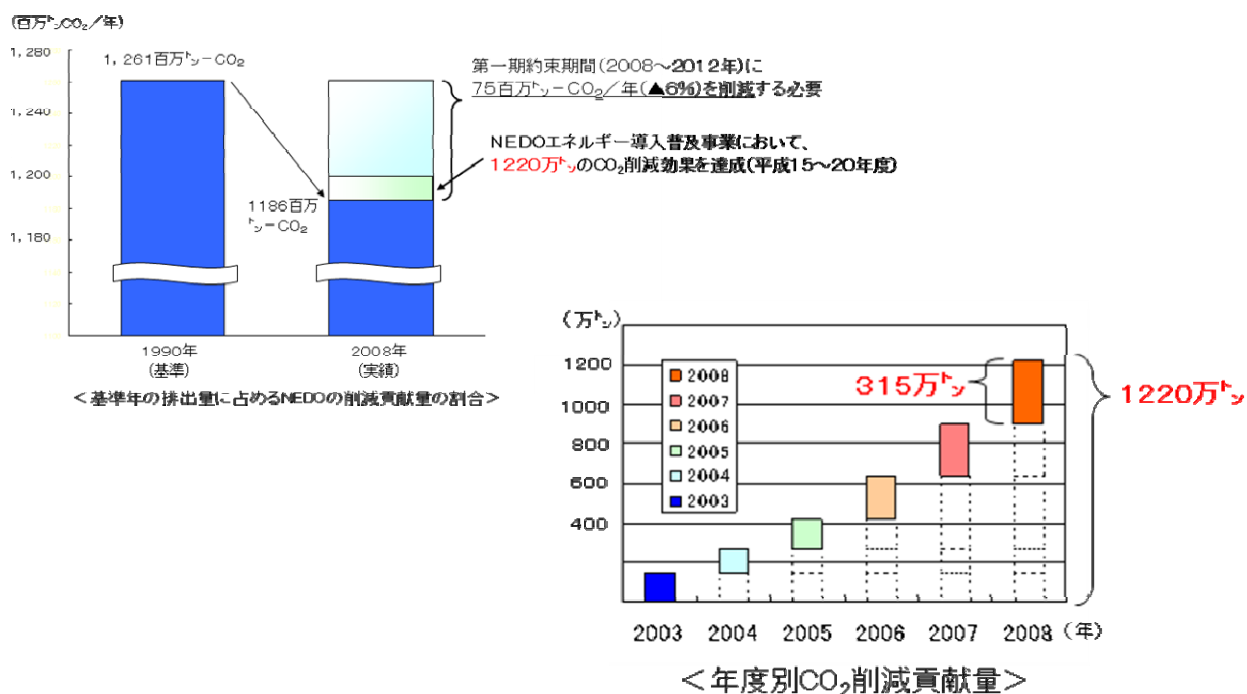
## 新エネ・省エネ導入普及関連

### 1. 導入促進関連事業によるCO<sub>2</sub>削減貢献量

日本では、京都議定書において約束した温室効果ガスを2012年までに、-6%（90年比）まで削減するという目標を達成すべく様々な取組みを行っているところですが、NEDOも導入普及事業や京都メカニズムクレジット取得事業等を通して、目標達成に貢献しています。

NEDOでは、代替フロン等3ガス（ハイドロフルオロカーボン（HFC）、パーフルオロカーボン（PFC）類、六フッ化硫黄（SF<sub>6</sub>））を使用する全ての分野・業種を対象に、その排出抑制設備の適用等に係る技術開発を行う「地域地球温暖化防止支援事業」により160万トン、また事業者等の省エネルギー設備、技術の導入を補助する「エネルギー使用合理化事業者支援事業」により127万トン等、平成20年度は新たに315万トンのCO<sub>2</sub>削減効果をあげました。

これにより、第1期中期目標期間の導入普及業務の実績を含めて1,220万トンのCO<sub>2</sub>削減効果をあげています。これは、削減目標-6%（7,500万トン/年）の約16%に相当します



また、我が国では京都議定書に基づく6%の排出削減を達成するため、国内での排出削減対策で最大限の努力を行ってもなお不足すると見込まれる1.6%相当分（5年間でCO<sub>2</sub>換算約1億トン）について京都メカニズムの活用により対応することとしています。

NEDOでは政府から委託を受け、京都メカニズムを活用したクレジット取得を行う「京都メカニズムクレジット取得事業」を推進し、平成20年度までにCO<sub>2</sub>換算で総計9,510万トン分の契約量を達成しました。これは、政府取得目標（約1億トン）の95%に相当します。

# 温室効果ガス排出抑制の取組

## 温室効果ガス排出抑制等のための実施計画

「京都議定書目標達成計画」及び「政府がその事務及び事業に関し温室効果ガスの排出の抑制等のため実行すべき措置について定める計画」に基づき、NEDOにおける温室効果ガスの排出抑制等のための実施計画を平成19年7月2日に策定し、公表しました。

[http://www.nedo.go.jp/jyuhoukoukai/kankyuu/onshitu\\_jissui\\_h19.pdf](http://www.nedo.go.jp/jyuhoukoukai/kankyuu/onshitu_jissui_h19.pdf)

### <計画の内容>

#### I. 対象となる事務及び事業

NEDO（本部、支部等）が主として行う事務及び事業

#### II. 対象期間

平成19年度から平成24年度まで。その実施の状況、技術の進歩等を踏まえ、必要に応じ、見直しを図る。

#### III. 目標

平成18年度比で平成24年度までにNEDOの事務及び事業に伴い直接的に排出される温室効果ガスの総排出量を概ね6%削減する。

#### IV. 事務及び事業に伴い排出される温室効果ガスの排出実態

当該計画期間中、毎年度、NEDOの事務及び事業に伴い排出される温室効果ガスの総排出量の推計を行い、環境報告書にて公表する。

#### V. 具体的な措置の内容

##### 1. 財やサービスの購入・使用に当たっての配慮

- (1) 低公害車の導入
- (2) 自動車の効率的利用
- (3) エネルギー消費効率の高い機器の導入
- (4) 用紙類の使用量の削減
- (5) 再生紙などの再生品や木材の活用
- (6) HFCの代替物質を使用した製品等の購入・使用の促進等

##### 2. 建築物の建築、管理等に当たっての配慮

- (1) 冷暖房の適正な温度管理

##### 3. その他の事務・事業に当たっての温室効果ガスの排出の抑制等への配慮

- (1) エネルギー使用量の抑制
- (2) ごみの分別
- (3) 廃棄物の減量

##### 4. 職員に対する研修等

- (1) 職員に対する地球温暖化対策に関する研修の機会の提供、情報提供

## (温室効果ガス排出削減計画)

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構温室効果ガス排出削減計画

		平成18年度	平成24年度目標
(単位)			(18年度比)
機構車燃料	kg-CO <sub>2</sub>	61,428	
施設のエネルギー使用	kg-CO <sub>2</sub>	1,199,367	
電気	kg-CO <sub>2</sub>	888,186	
(電気使用量)	kWh	2,401,633	
(電気の排出係数)	kg-CO <sub>2</sub> /kWh	2,202,000kWh	
		は0.368	
		38,397kWh	
		は0.502	
		39,444kWh	
		は0.358	
		121,792kWh	
		は0.365	
電気以外	kg-CO <sub>2</sub>	311,181	
その他	kg-CO <sub>2</sub>	0	
合計 (暫定値)	kg-CO <sub>2</sub>	1,260,796	1,185,147 (-6%)
合計 (確定値) (注)	kg-CO <sub>2</sub>	894,390	840,727 (-6%)

(注) 平成19年7月2日、実施計画において公表した平成18年度排出量 1,260,796kg-CO<sub>2</sub> について、以下の変更を行うことにより、確定値として894,390kg-CO<sub>2</sub>に変更しました。その結果、平成24年度の目標は、840,727kg-CO<sub>2</sub>になります。

- 電気の使用に係る温室効果ガス排出係数について、平成17年度の電気事業者別排出係数を、平成18年度の電気事業者別排出係数(平成19年9月27日経済産業省・環境省告示第8号)に更新して推計しました。
- NEDO技術開発機構が入居するMUZ A川崎セントラルタワー等の共益費部分(空調用電気、保安照明用電気及び熱)の床面積相当分の排出量を計上していましたが、この部分のエネルギー管理権限を有するオーナー側の排出量として国に報告されているため除外しました。
- NEDO技術開発機構の白金台研修センター、桜新町倉庫、篠栗倉庫等に係る正確な排出量が把握できたため、それら排出量を追加しました。

## 実施計画の推進体制

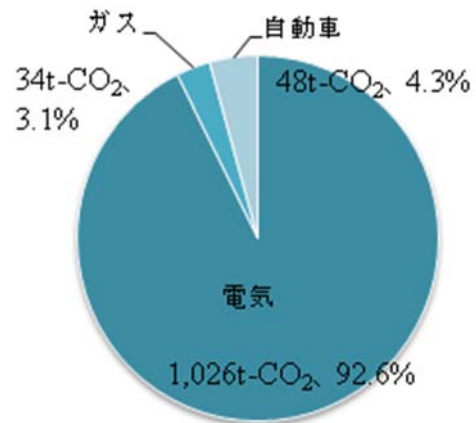
温室効果ガス排出抑制等のための実施計画の策定・評価・点検は、総務部において実施し、各事業部等への周知徹底、意識の醸成等を推進しております。また、毎年度本計画の実施状況について、自主的に点検を行うとともに、必要に応じ、本計画の見直しを図ってまいります。

なお、本部オフィスのグリーン調達や省エネルギー活動等は、資産管理部より各部署へ周知促進を図っています。

## 平成19年度の排出量の更新（確定値）

平成20年6月23日のNEDOHP及び「環境報告書2008」において公表した平成19年度の総排出量912,246kg-CO<sub>2</sub>（暫定値）について、以下の変更を行うことにより、確定値として1,107,043kg-CO<sub>2</sub>に変更しました。

- 電気の使用に係る温室効果ガス排出係数について、平成18年度の電気事業者別排出係数を、平成19年度の電気事業者別排出係数（平成20年12月19日経済産業省・環境省告示第8号）に更新して推計しました。



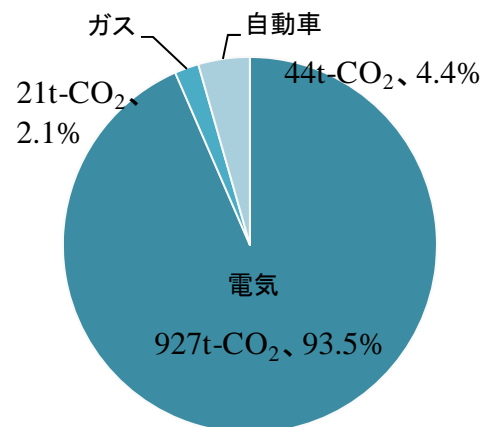
19年度温室効果ガス排出量  
排出源別構成比

## 平成20年度の排出量（暫定値）

平成20年度のNEDOの温室効果ガス排出量について、平成20年度の電気事業者別排出係数は公表されていないため、暫定的に平成19年度の電気事業者別排出係数を用いて推計した結果、991,820kg-CO<sub>2</sub>でした。

本部執務室の省エネの徹底及び照明照度の調整等による55,022kg-CO<sub>2</sub>の削減で前年度比11.6%削減を達成するなど、エネルギー使用量では基準年度比7.5%の削減を達成しました。（他方、平成19年度の電気事業者別排出係数が基準年度（18年度）比25%増（※本部において）となったため、CO<sub>2</sub>換算では基準年度比10.9%増となっております。）

なお、平成20年度の温室効果ガス排出量は、今後公表されることになる平成20年度の電気事業者別排出係数を用いて、平成21年度の温室効果ガス排出量の推計を行う際に確定値を推計し公表する予定です。



排出源別構成比

※小数点以下を四捨五入しているため、端数において合計値と必ずしも合致しない。

## 今後の取組

実施計画に掲げた平成24年度までに平成18年度比6%削減するという目標の達成に向け、従業員の残業時間の抑制、ペーパーレス、空調温度及び照明度の適正化等に更に徹底的に取り組んでまいります。



# グリーン調達

## グリーン調達への取組

NEDOは、平成13年4月に施行された「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」に基づき、製品やサービスの購入に際し、できる限り環境への負荷の少ない物品等を優先して選ぶグリーン調達を進めています。

また、グリーン調達を推進するため、「環境物品等の調達の推進を図るための調達方針」（以下「調達方針」という。）を毎年策定し公表しています。

平成20年度調達方針 <http://www.nedo.go.jp/informations/koubo/choutatu/houshin/h20/index.html>

## 調達目標

### ○特定調達物品

特定調達物品は、原則として、調達方針に則し、品目毎に判断の基準を満たす物品を調達します。

### ○特定調達物品以外のその他環境物品等

その他の環境物品については、品目に応じてエコマーク或いはグリーンマークの認定を受けている製品またはこれと同等のものを調達するように努めます。

OA機器、家電製品の調達に際しては、より消費電力が小さく、かつ再生材料を多く使用しているものを選択します。

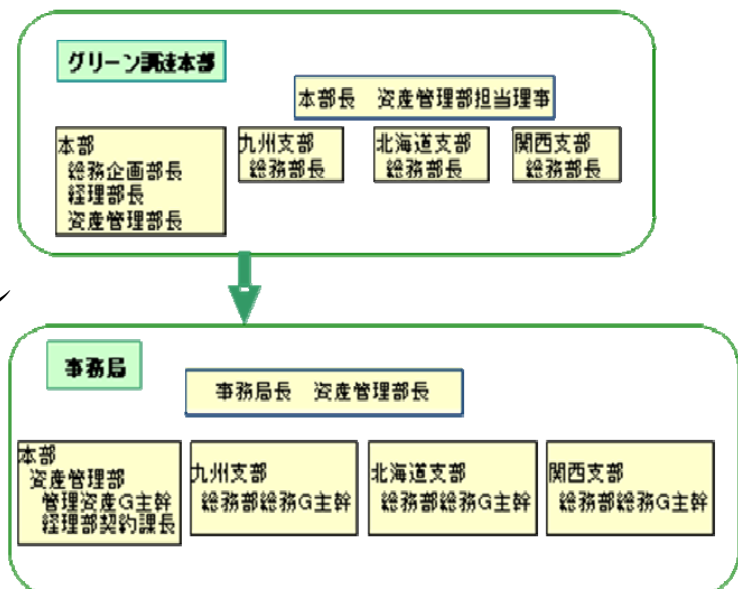
基本方針に定める判断基準を満たすことにとどまらず、できる限り環境負荷の少ない物品の調達に努めます。

## 推進体制

NEDOにおいて、資産管理部担当理事を本部長とし、本部員（本部総務企画部長、経理部長、資産管理部長、各支部総務部長）で構成される「グリーン調達推進本部」を設けて、グリーン調達の推進を図っています。

### グリーン調達推進体制

2009/8/31現在



## 2008年度の実績

2008年度に調達した特定調達品実績は、環境省へ報告すると同時に、NEDOのホームページでも公表しています。

<http://www.nedo.go.jp/informations/koubo/choutatu/jisseki/20/index.html>

2008年度に調達した主な特定調達品は、表1の通りです。

分野	品目	目標値	総調達量	特定調達物品の 調達量	目標達成率	
紙類	コピー用紙	100 %	43,329.8 kg	43,329.8 kg	100 %	
	印刷用紙(カラー用紙)	100 %	551.6 kg	551.6 kg	100 %	
文具類	ボールペン	100 %	1660 本	1660 本	100 %	
	マーキングペン	100 %	2622 本	2622 本	100 %	
	ファイル	100 %	14,924 冊	14,924 冊	100 %	
	事務用封筒(紙製)	100 %	6,000 枚	6,000 枚	100 %	
	ノート	100 %	1,135 冊	1,135 冊	100 %	
	付箋紙	100 %	6,274 個	6,274 個	100 %	
機器類	棚	100 %	2 連	2 連	100 %	
	収納用什器(棚以外)	100 %	163 台	163 台	100 %	
	ローパーティション	100 %	3 台	3 台	100 %	
OA機器	コピー機等	リース・レンタル(新規)	100 %	15 台	14 台	100 %
		リース・レンタル(継続)	/	23 台	21 台	/
家電製品	テレビジョン 受信機	購入	100 %	1 台	1 台	100 %
		リース・レンタル(新規)	/	0 台	0 台	/
		リース・レンタル(継続)	/	0 台	0 台	/
自動車等	一般公用車	購入	100 %	1 台	1 台	100 %
		リース・レンタル(新規)	/	0 台	0 台	/
		リース・レンタル(継続)	/	1 台	1 台	/
制服・作業服	作業服	100 %	68 着	68 着	100 %	
役務	印刷	100 %	300 件	300 件	100 %	

## 社会とのコミュニケーション

NEDOは、一般の方々を対象として、研究成果を分かりやすく発信するよう努めています。

### 常設展示

東京都千代田区北の丸公園内の科学技術館4FのNEDO展示室では、子供達（小学校高学年）を対象に、ゲーム感覚でエネルギー環境問題に関する勉強できるコーナーやNEDOの研究成果に触れることができる展示を行っています。平成20年度の入場者は年間約45万人です。



### 期間展示（TEPIA）

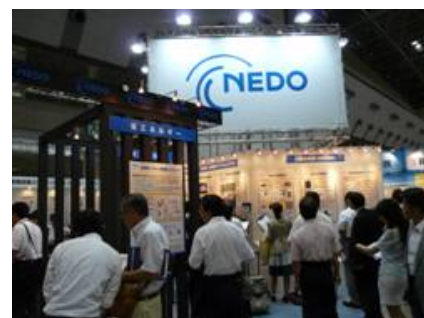
日本の先端技術とその成果である製品を展示する体験型展示館のTEPIAにて、「技術戦略マップ」で描かれる未来社会像を表現した体験型模型を展示しています。



### 研究成果の発信（展示会、シンポジウム開催など）

#### ■ 「第4回新エネルギー世界展示会」への出展

地球環境保全に貢献する新たな社会・新たな産業を広げることを目的とした「エネルギー世界展示会」にNEDOは共催団体として参加しました。4回目の参加となる今年度は、太陽光発電、風力発電、バイオマス利用、燃料電池、蓄電池などの新エネルギーに関する技術開発の事例や取り組みを紹介しました。



#### ■ 「エコプロダクツ2008」への出展

企業・団体、NGO・NPO、行政・自治体、大学・研究機関、そして一般の生活者など、さまざまな立場の人々が参加する日本最大級の環境展示会へ出展しました。NEDOが実施する様々な環境技術の中から、光触媒、蓄電池、小型風力発電などを紹介しました。

## ■ 「グリーンIT国際シンポジウム」の開催

IT機器自身の省エネとIT・エレクトロニクス技術による経済・社会活動の変革、これを通じた地球温暖化対策をより具体化するために設立された産官学パートナーシップ「グリーンIT推進協議会」との共催で「グリーンIT国際シンポジウム」を開催し、国内ITベンダー・研究機関とIT・エレクトロニクスを利用するユーザの双方の観点から、環境調和型の社会実現についてなど活発な議論を行いました。



## ■ 「ポリュテック2008」への出展

欧州最大級の国際環境・エネルギー総合展示会「Pollutec」において、NEDOの実施する新エネ・省エネ・環境技術の中から、自動車用リチウム電池、高効率ヒートポンプ式暖房給湯機、有機EL照明、ノンフロン冷凍・空調など、実用化間近のもの・製品化されたものを中心に出展しました。



## 小中学生、親子、教師向けの啓発普及活動

### ■ 小学生新聞への記事掲載と親子見学会

小学生新聞にNEDOの事業を紹介する記事を3回に渡って連載しました。小学生が豆記者となり太陽光発電取材する企画やバイオマス見学会を企画し、実際にNEDOの実証試験サイトを訪問する機会を提供しました。



### ■ 親子で参加できる科学教室を開催

国立科学博物館と共催し、親子で参加できる科学教室を2回実施しました。1回目は地球温暖化と太陽エネルギー、2回目はナノテクノロジーをテーマとし、子どもたちに工作や実験を指導する一方で、保護者向けにも生活にまつわる内容で講演会を行い、保護者層にも普及啓発を行いました。





## ☒ 「太陽電池工作コンクール」の開催

太陽電池を小・中学校の教育現場に提供し、太陽電池を利用した工作物の制作を通じて、エネルギー・環境問題に対する理解と関心を促すことを目的とした「太陽電池コンクール」を開催しました。20回目を迎えた20年度は、20周年記念特別展も開催し、第1回目からの開催の歴史や受賞作品を紹介しました。



## ☒ 中高生の訪問受け入れ

環境や新エネルギーなどについて勉強する中学生や高校生を受け入れ、最新の日本のプロジェクトの情報や世界の情勢などを詳しく紹介しました。また、職場体験訪問も受け入れ、NEDOの役割や技術開発プロジェクトの仕事に関して体験してもらいました。



## 地域社会への貢献

### ☒ 「川崎国際環境技術展」を共催

川崎市の環境への取り組みや国内外の企業の有する優れた環境技術等の情報を川崎の地から広く国内外へ発信し、世界に誇れる環境技術・製品等を有する企業と国内外の企業等とのビジネスマッチングの場を提供することを目的に、川崎市や関連機関と共同で「川崎国際環境技術展」を開催しました。NEDOからは、エネルギー・環境技術に関する研究成果を展示し、地球温暖化に対する取り組みを紹介しました。



### ☒ 「かわさきサイエンスチャレンジ」へ参加

「かわさきサイエンスチャレンジ」に参加し、体験型のゲームやクイズで子どもたちに新エネルギーを楽しく学習してもらうコーナーを提供しました。



## その他の取組

### NEDO内におけるエネルギー使用量の抑制

エネルギー使用量の抑制を図るため、下記の事項を実施しています。

- ・昼休み時間の消灯
- ・未使用時のOA機器の電源OFFの励行
- ・一斉退社日の励行（放送による呼びかけと見回り）

### 紙の使用量削減

紙の使用量削減を目指して下記の事項を実施してきたところ、前年度比で大幅な削減となりました。今後も以下取組を通して、紙の使用量削減に努めます。

- ・両面印刷、両面コピーの励行
- ・使用済み用紙を再利用
- ・会議資料等、作成資料の簡素化の徹底
- ・印刷物発注等の際の原稿のPDF化
- ・複数ページ印刷
- ・回覧等可能な限りメール、イントラネットで周知し、ペーパーレス化を推進
- ・ペーパーレス会議室の設置

（単位:kg）

	19年度	20年度
調達量	57,283.7	43,329.8

### ゴミ分別の徹底

各階のリフレッシュコーナーに、分別回収容器類（可燃物、不燃物、缶、ビン、ペットボトル）を設置し、資産管理部による見回りを実施しています。

使用済みテプラカートリッジなどリサイクル可能なものを回収し、リサイクルに向けて、製品の長期使用を推進しています。



（リフレッシュコーナーに設置しているゴミ分別容器類）

### クールビズ

地球温暖化対策及び省エネルギー対策の一環として各部室内に周知を図り、夏季の軽装を励行しました。

また、NEDOの役職員のみならず、来構者の方々へもご案内し、協力を呼びかけました。



## 安全衛生活動～快適な職場環境づくり～

快適な職場環境づくりのため、職員の健康維持・促進を推進及び緊急事態対応において、次の活動を実施しています。

### (1)衛生委員会(労働時間等設定改善委員会)の活動

衛生委員会を設置し、職員の災害防止と健康障害を防止するための調査・審議を行うとともに、当該委員会を労働時間等設定改善委員会とみなし、勤務時間及び職場環境の整備に向けた改善策や新型インフルエンザ対策についても検討する活動を定例で行っています。

### (2)健康管理の取組

- ① 職員自らが何時でも測定できるよう血圧計を設置し、体調管理に役立てています。
- ② 5月～7月(前期)、10月～12月(後期)にかけて生活習慣病(成人病)検診を実施し、職員の健康障害や疾病の早期発見に努めています。また、健保組合加入者対象の人間ドックも年間を通じて積極的に実施しています。
- ③ 産業医による面談を行い、健康相談やメンタルに関する相談を実施しています。また、健康診断実施後に健診結果を基に健康に関する指導を行っています。
- ④ 新型インフルエンザの職員への予防策として、うがい・手洗いの徹底、マスクの備蓄、消毒用アルコールの使用等の周知徹底を図っています。また、感染拡大防止に向けた行動計画を策定し、危機管理体制を再整備しました。



### (3)メンタルヘルスケアの取組

厚生労働省より「職場におけるこころの健康づくり」の指針が発表されて以来、メンタルヘルス対策に注目して職員の「こころの健康」をサポートするべく、職場とは切り離された専門家のアドバイスを受け、必要に応じてカウンセラーによるカウンセリング、電話相談、WEB(専用ホームページ)を利用してメンタルヘルスサービスを行う会社との契約を締結しています。

また、産業カウンセラーによる一般職員に対するストレスケアセミナーの開催でのセルフケア知識の習得や管理職へのラインケア研修などを実施してメンタルケア体制を整えています。

### (4)セクシュアル・ハラスメント等の防止に向けた取組

職場内におけるセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント等のハラスメントを防止するため、これらハラスメントの防止に関する研修を定期的実施しています。

また、19年度から人事部にハラスメントの相談窓口を設置し、男性職員3名、女性職員4名が随時相談を受け付ける体制をとっています。

### (5)救命救急対策

職員等の緊急事態に備えるため、救命救急器具である「AED」をオフィス内3ヶ所に導入するとともに、実際の操作方法等について、職員向けに研修を行っています。







NEDO 事務所等の所在地

	電話番号	郵便番号	住 所
<b>本部</b>			
総務企画部	044-520-5100	〒212-8554	神奈川県川崎市幸区大宮町1310番 ミュウザ川崎セントラルタワー
人事部	044-520-5102		
経理部	044-520-5120		
検査・業務管理部	044-520-5131		
資産管理部	044-520-5141		
情報システム部	044-520-5153		
研究評価部	044-520-5160		
研究開発推進部	044-520-5170		
電子・情報技術開発部	044-520-5210		
ナノテクノロジー・材料技術開発部	044-520-5220		
バイオテクノロジー・医療技術開発部	044-520-5230		
機械システム技術開発部	044-520-5241		
燃料電池・水素技術開発部	044-520-5260		
エネルギー対策推進部	044-520-5180		
新エネルギー技術開発部	044-520-5270		
省エネルギー技術開発部	044-520-5280		
京都メカニズム事業推進部	044-520-5185		
環境技術開発部	044-520-5250		
エネルギー・環境技術本部 (国際事業統括室)	044-520-5190		
クリーンコール開発推進部	044-520-5290		
<b>支部・事務所</b>			
	電話番号	住 所	
北海道支部	011-281-3355	〒060-0003	北海道札幌市中央区北3条西3-1-47 NORTH33 ビル 8階
関西支部	06-4306-5020	〒530-0001	大阪府大阪市北区梅田3-3-1 梅田ダイビル16階
九州支部	092-411-7831	〒812-0011	福岡県福岡市博多区博多駅前2-19-24 大博センタービル10階
<b>海外事務所</b>			
	電話番号	住 所	
ワシントン事務所	+1-202-822-9298	2000 L Street, N.W., Suite 605, Washington, D.C. 20036 U.S.A	
バンコク事務所	+66-2-256-6725~6	8th Floor, Sindhorn Building, Tower 2 130-132 Wittayu Road, Lumpini, Pathumwan, Bangkok 10330, Thailand	
北京事務所	+86-10-6526-3510	中華人民共和国北京市建国門内 大街8号 北京中糧広場B座8層10室 郵編 100005	
ニューデリー事務所	+91-11-4351-0101	7th Floor, Hotel Le Meridien Commercial Tower Raisina Road, New Delhi 110 001, India	
欧州事務所	+33-1-44-50-18-28	10, rue de la Paix 75002 Paris France	

地図

<本部>

〒212-8854 神奈川県川崎市幸区大宮町 1310 番地

ミュージアム川崎セントラルタワー16階~21階 (総合受付 16階)

